

# 第2章

---

## 将来都市像



2-1 将来都市像

2-2 都市づくりの目標

2-3 将来都市構造



## 第2章 将来都市像

### 2-1 将来都市像

#### (1) 将来都市像

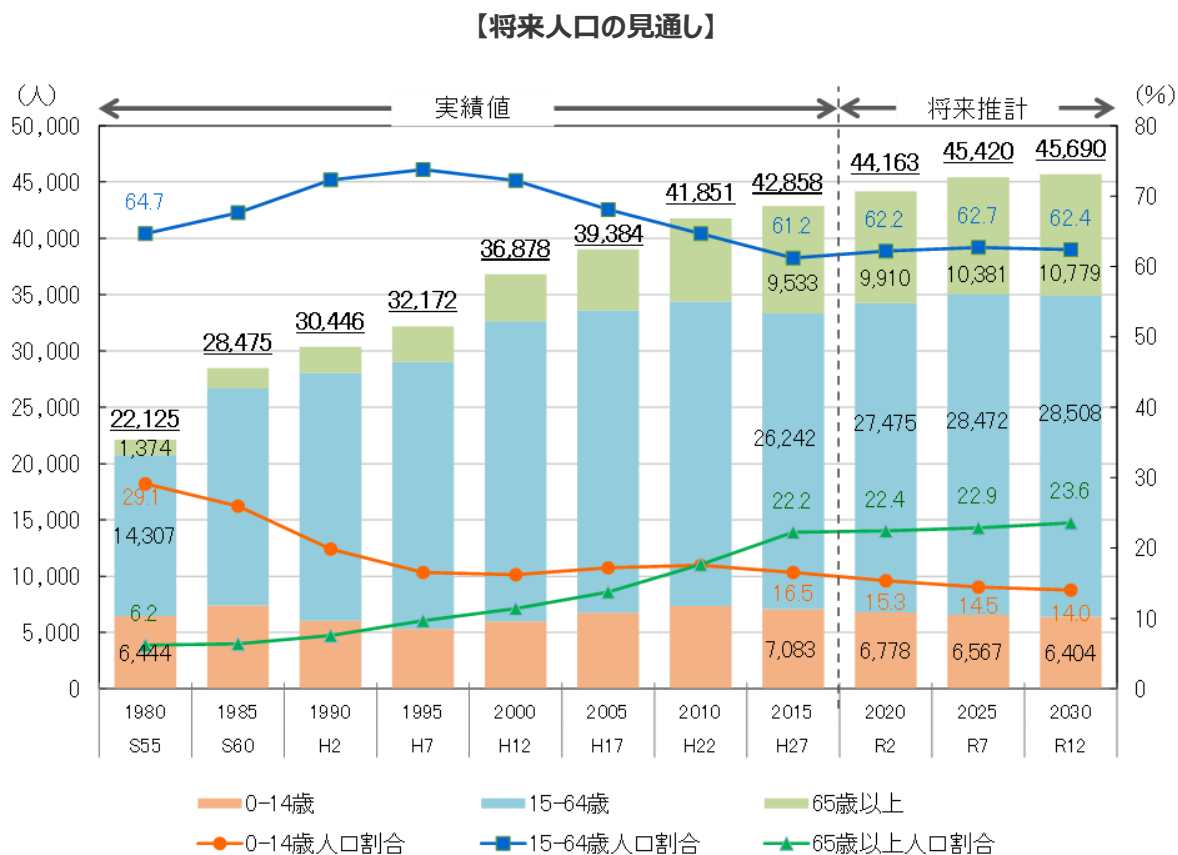
人・まち・みどり ずっと暮らしたい とうごう

#### (2) 目標年次

本計画においては、おおむね 20 年後の東郷町の姿を展望しつつ、本計画策定時からおおむね 10 年後である令和 12 年度（2030 年度）を目標年次とします。

#### (3) 将来人口の見通し

目標年次における将来人口の見通しは、上位計画である「第 6 次東郷町総合計画」を踏まえ、約 45,700 人と設定します。東郷町における人口は、平成 27 年時点で 42,858 人であり、目標年次である令和 12 年度（2030 年度）まで人口は増加傾向を維持するものと考えられます。



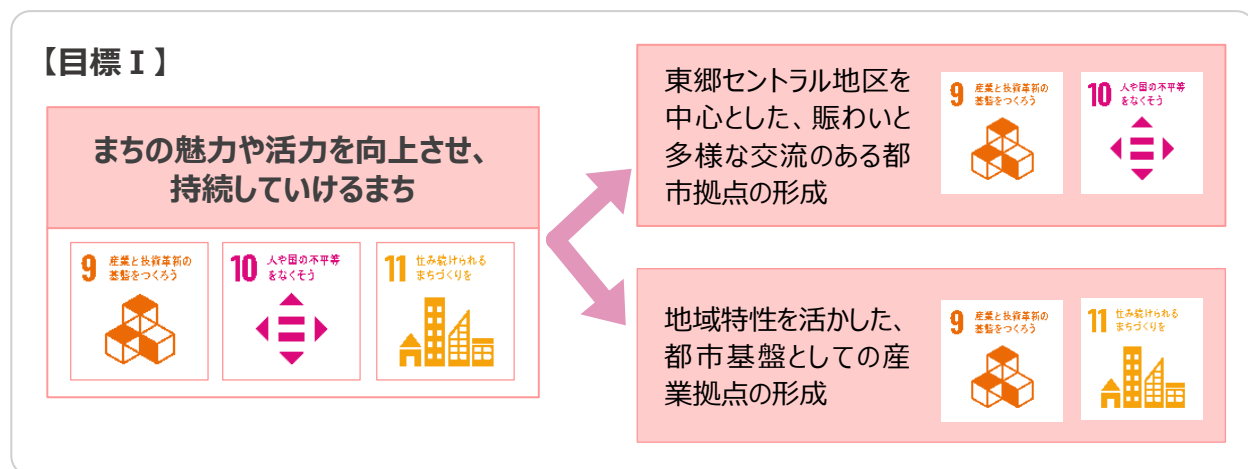
※国立社会保障・人口問題研究所推計を準拠し作成  
(資料：第 6 次東郷町総合計画)

## 2-2 都市づくりの目標

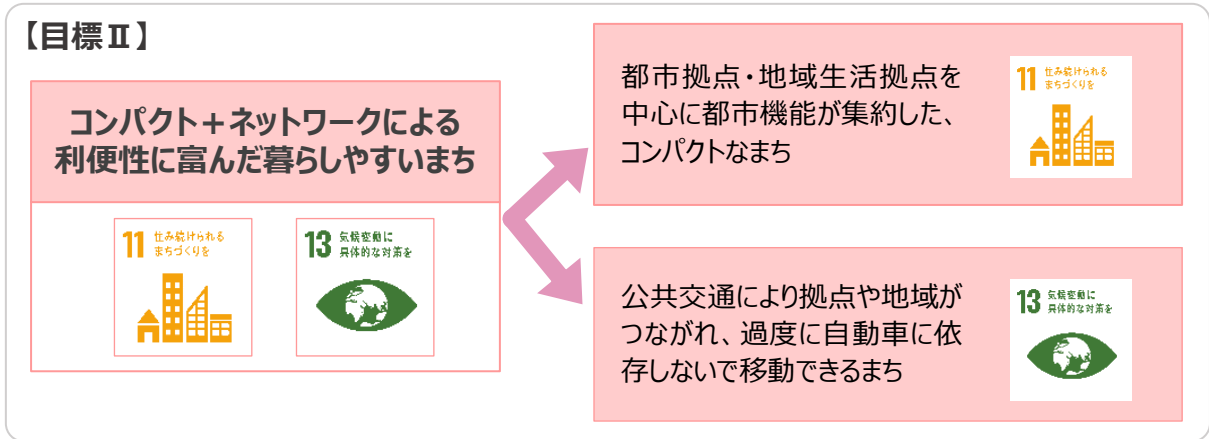
前章で検討した都市づくりの課題と上位計画である「第6次東郷町総合計画」における将来都市像の実現に向け、進めるべき都市づくりの課題と方向性を整理します。

都市づくりの課題	都市づくりの方向性
○持続可能なまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東郷セントラル地区を中心とした都市拠点の形成により、交流人口の増加を図る</li> <li>● 産業拠点の形成により、将来にわたって持続可能なまちづくりを推進する</li> </ul>
○日常生活の利便性確保 (コンパクトな都市構造への転換)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 都市拠点や地域生活拠点を中心に、コンパクトな都市構造の形成を図る</li> <li>● 公共交通や道路ネットワークが充実した、過度に自動車に依存しない暮らしやすいまちづくりを推進する</li> </ul>
○良好な居住環境の維持・さらなる向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様で良好な居住環境の維持・形成を図る</li> <li>● 若者・子育て世代・高齢者等、多様な人や多世代が交流するまちづくりを推進する</li> <li>● 自然・田園環境の保全・活用等環境に優しいまちづくりを推進する</li> </ul>
○安全・安心なまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害に強いまちづくりに取り組み、東郷町に住みたい・住み続けたいと思えるような安全なまちづくりを推進する</li> <li>● バリアフリー化や交通安全対策、防犯対策により、安心して暮らせるまちづくりを推進する</li> </ul>

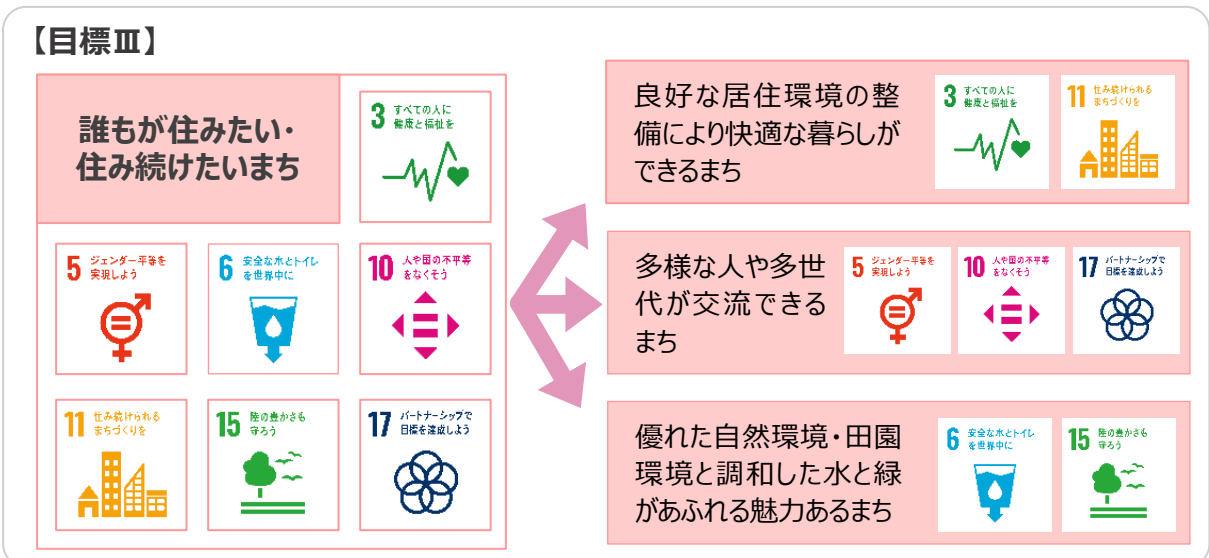
上記の都市づくりの課題に対応し、次の4つの柱を都市づくりの目標として定めるとともに、9つの都市づくりの方向性とSDGs（持続可能な開発目標 SDGs（Sustainable Development Goals））。平成27年9月の国連でのサミットで定められた。）の視点を踏まえ、全ての人々が平和と豊かさを享受でき、将来の世代の暮らしを持続可能な形で改善するという視点を考慮しながら、都市づくりの目標の展開を設定します。（以下、SDGsに掲げられた17の目標のうち本計画の取組と関連性のある10の目標を口ゴにより明示します。）



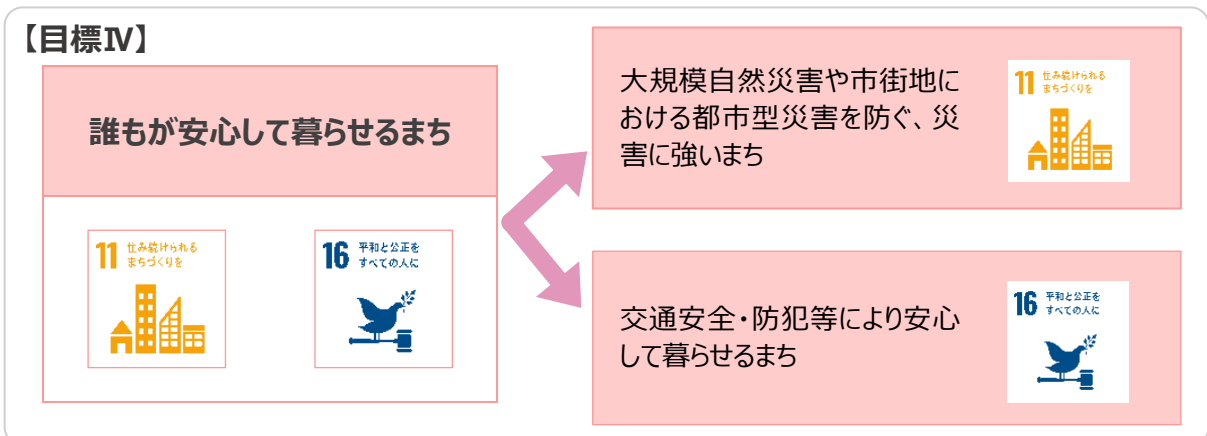
- 東郷セントラル地区を中心に、商業施設等の都市機能が集約した魅力ある都市拠点を形成し、町内及び周辺都市からの交流人口の増加を目指します。
- 交流人口の増加により、日常的な賑わいや活力を増大させるとともに、産業拠点の形成を図り、他都市への経済依存を抑制し、自立的な都市経営を強化することで、持続的なまちづくりを目指します。
- 工業系や研究開発・工業系の新たな産業拠点の形成を図り、地域特性を生かした産業系機能の充実により、町全体の地域経済の活力向上を図ります。



- 東郷セントラル地区を中心とした都市拠点の形成と、市街地の特性に応じた地域生活拠点の形成により、都市機能が集約したコンパクトなまちの形成を目指します。
- 既存の市街化区域を中心に一体的な市街地の形成を図るとともに、隣接都市の駅や市街地との位置関係等を考慮し、適切な市街地の配置を目指します。
- 東郷セントラル地区のバスターミナルを軸として、都市拠点や地域生活拠点、鉄道駅等の交通結節点\*や分散する市街地を適切につなぐ公共交通サービスにより、利便性を高め、過度に自動車に依存しなくても移動ができるネットワークの形成を目指します。
- 都市計画道路等の整備を推進し、町内と町外を結ぶ道路ネットワークの形成を目指します。
- 既存の公共交通サービスに加え、地域の状況に適したモビリティサービス\*の導入に向けた AI（人工知能）や自動運転技術等の新技術を活用したデマンド型交通\*や自動運転バス等の整備への取組を検討します。



- 中低層の集合住宅やゆとりある戸建住宅等、地域ごとの特性に応じた居住環境の形成を目指します。
- これからの東郷町を支える若者世代や子育て世代が住みたくなる・住み続けたくなるまちを目指すとともに、若者から高齢者まで、全ての世代が安心して暮らせるまちとして、暮らしやすい居住環境の形成を目指します。
- 旧来からの町民・新規に居住する方、様々な職業の方、単身者、ファミリー世帯、外国人居住者等、多様な方々が同じ町民として暮らしやすく豊かに交流できる場や機会の創出を目指します。
- 今後の人口の見通しを踏まえつつ、適切な規模の新たな住宅系市街地の計画的な確保を目指します。
- 町内の歴史・文化的資源の保全、地域や集落における祭りや地域活動、イベント等の交流活動等、東郷町独自の景観・歴史・文化をまちの誇りとして継承することを目指します。
- 市街化調整区域における主要集落等、これまでの暮らしの維持に努めます。
- 身近な公園・緑地や下水道等、暮らしに欠かせない都市施設を整備し、計画的な維持・管理を進めます。
- 愛知池・河川・ため池等の水辺環境や森林・田園等の自然環境の保全・活用により、町全体での緑地保全・緑化の推進や、水と緑のネットワークの形成を目指します。



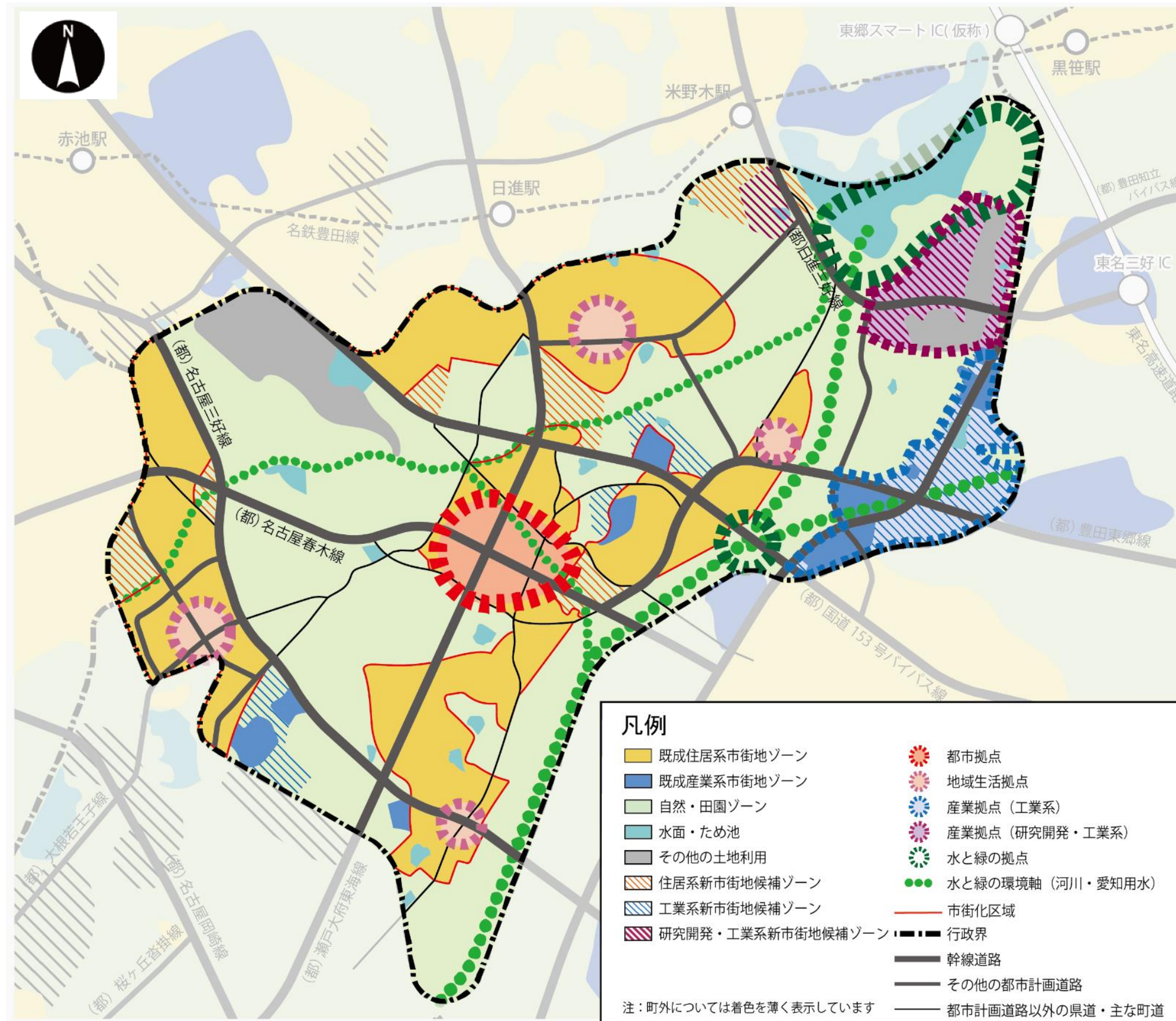
- 大規模自然災害に備え、河川の治水対策等の防災対策を進め、災害に強いまちづくりを目指します。
- 市街地における都市型災害\*に備え、建築物の耐震性の向上、公園・広場等のオープンスペース\*の確保等、安全な暮らしを支える市街地形成を目指します。
- 道路・公共施設等のバリアフリー化や交通安全対策等の充実により、人にやさしく、全ての世代が安心して暮らせるまちづくりを目指します。
- 防犯灯の充実、公園・緑地における防犯性の向上等、日常生活における防犯性の高いまちづくりを目指します。



## 2-3 将来都市構造

現況・課題、将来都市像・都市づくりの目標を踏まえ、東郷町の将来都市構造について、以下のように設定します。

【将来都市構造図】



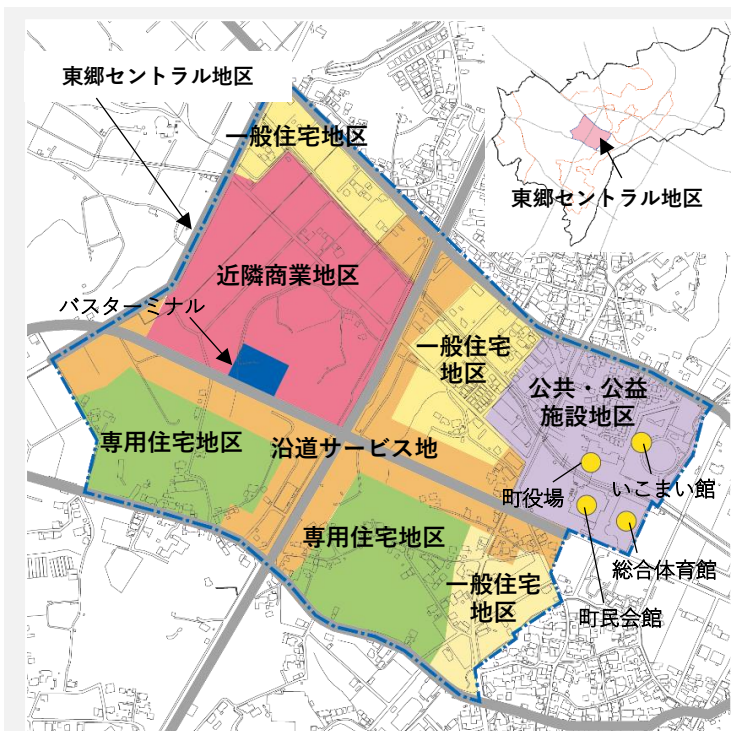




## (1) 拠点の形成

### 都市拠点

- 東郷セントラル地区（東郷中央土地区画整理事業区域及び町役場周辺の公共公益施設が集積した地区：右図参照）を都市拠点と位置付けます。都市拠点においては、広域的な集客機能を持つ商業施設や町役場、いこまい館、町民会館、総合体育館といった既存公益施設の多様な都市機能が集約し、町の中心核にふさわしい拠点の形成を図ります。
- 多様な都市機能の集積とバスターミナルの整備により、町民の交流と交通の中心核として機能する、多様な人々が触れ合える賑やかで魅力あふれる都市拠点の形成を目指します。
- 緑化の推進や公園等のオープンスペースの整備により、都市的な街並みの中にも緑あふれる環境に配慮した都市拠点の形成を目指します。
- 都市拠点では道路や広場等の公共空間を民間による賑わい活動や地域のコミュニティ活動、飲食店等の屋外客席として活用することで、来訪する楽しみや拠点としての魅力向上を目指します。
- 都市拠点の中では、AI（人工知能）やビッグデータ等の最先端技術を活用することによる町民福祉・利便向上も検討していきます。



【東郷セントラル地区土地利用イメージ図】

（資料：都市計画課作成データ）



【東郷セントラル地区鳥瞰図（近隣商業地区周辺）】

（資料：令和2年7月10日三井不動産プレスリリース資料）



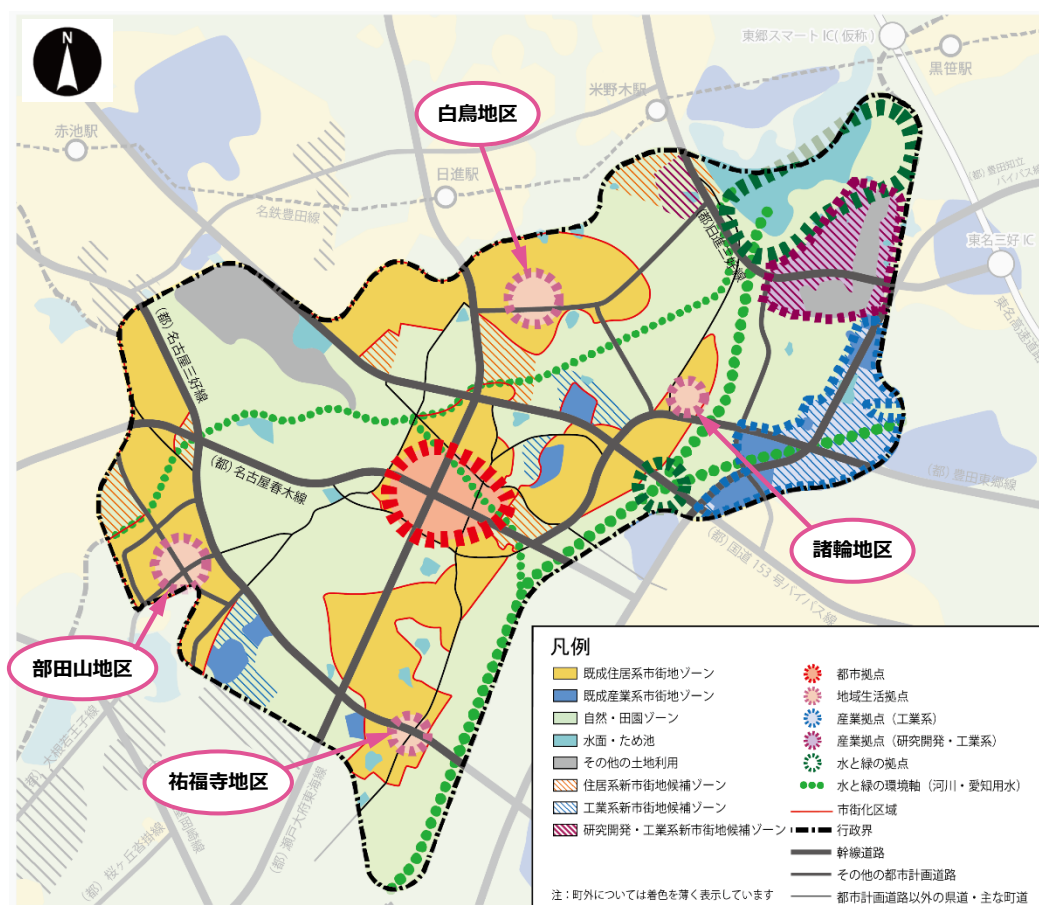
【東郷セントラル地区バスターミナル鳥瞰図】

（資料：令和2年7月10日三井不動産プレスリリース資料）

## 地域生活拠点

- 地域生活拠点においては、既存の都市機能の維持・充実により、生活利便施設、福祉、交流等の機能の充実を図ります。また、旧来からの市街地等では、伝統的な地域の中核としての位置付けを継承し、地域固有の歴史・文化的資源の維持や活用を図ります。
- 白鳥地区の商業集積地区を中心に、商業施設等の既存ストック\*を活用した日常的な生活サービス機能を提供できる地域生活拠点の形成を図ります。
- 部田山地区の各種公共公益施設や商業施設等が集積する地区について、日常的な生活サービス機能のさらなる維持・充実により地域生活拠点の形成を図ります。
- 祐福寺地区の商業施設等が集積する地区について、これら機能の維持・充実を図り、日常的な生活サービス機能を提供できる地域生活拠点の形成を図ります。
- 諸輪地区の中市周辺は、地域に根差した社寺・無形文化財等の歴史・文化資源があるほか、近傍の市街化調整区域に公民館や小学校・保育園・児童館等が立地しています。こうした歴史・文化資源や日常生活を支える都市機能と連携し、施設の利用者の中心となる子育て世代や若者世代が住みやすい住環境の整備を図るとともに、新旧の居住者、外国人居住者等、多様な人の交流が盛んな地域生活拠点の形成を図ります。

【地域生活拠点案内図】（38 ページの将来都市構造図の再掲）



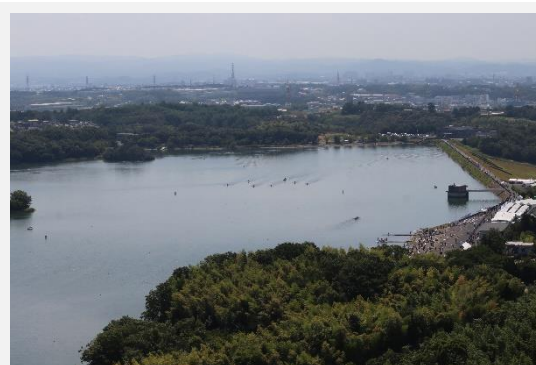


### 産業拠点（工業系、研究開発・工業系）

- (都)豊田知立バイパス線、(都)日進三好線、(都)東郷三好線等の都市計画道路沿道は、東名三好 IC といった広域交通体系\*によるポテンシャルが高いことから、産業拠点として位置付けます。産業拠点においては、地域の持つさまざまな利活用の可能性や周辺の農業環境との調和に配慮した市街地整備のあり方を検討し、工業系や研究開発・工業系の先進的で多様な産業機能が集積する拠点としての形成を図ります。

### 水と緑の拠点

- 愛知池周辺とその周辺の森林を、水と緑の拠点として位置付け、豊かな水環境を守りつつ、周辺開発との調和をもって自然と人の共生を図ります。
- 境川緑地については、町内における親水空間として、保全・整備・活用を図ります。



【愛知池】

## (2) 土地利用の構成（ゾーニング）

### 既成住居系市街地ゾーン

- 現在の市街化区域は、非住居系の土地利用を除き、多様な人や世代が安心して暮らせる持続的な既成住居系市街地ゾーンとして位置付けます。

### 既成産業系市街地ゾーン

- 諸輪工業団地や東郷町工業団地、北山地区工業集積地、大規模な既存の工業地や、諸輪東部地域の工業系・物流系の開発地については、既成産業系市街地ゾーンとして位置付けます。

### 自然・田園ゾーン

- 市街化調整区域において豊かな農地、緑等が広がる地域については、自然・田園ゾーンとして位置付けます。



【東郷町工業団地】

### 新市街地候補ゾーン

- 目標年次における将来人口を踏まえ、市街化区域に隣接する地域や鉄道駅などに近く利便性を生かせる地域において、新たな市街地形成について検討する住居系新市街地候補ゾーンを設定します。
- 将来の産業拠点の形成や既存工業系市街地の拡充、地域の産業振興を図るため、産業系の新市街地を検討する工業系新市街地候補ゾーンと研究開発・工業系新市街地候補ゾーンを設定します。
- 新市街地の整備に当たっては、災害リスクを十分考慮し、安全な市街地整備を図ります。

### (3) その他

#### 分散型市街地への対応と交通結節点を生かした市街地形成

- 分散する既存市街化区域については、市街化調整区域における自然・田園ゾーンとしての位置付けに留意しつつ、目標年次における将来人口を踏まえながら住居系市街地の拡大について検討し、特に、既成住居系市街地で比較的近接している場所については、分散する市街化区域の連担を目指します。また、周辺市に隣接する区域は、それぞれの市の動向を見据えた市街地形成を図るものとします。
- 日進市の米野木駅に近接するエリアについては、交通結節点の利便性を生かした新市街地の形成を目指します。

#### 都市の骨格となる交通軸の考え方

- 町の骨格的な交通軸として、東西軸と南北軸を設定します。
- 東西の市街地や都市拠点・地域生活拠点、東名三好 IC 等を結ぶ道路ネットワークとして(都)国道153号バイパス線、(都)名古屋春木線、(都)豊田東郷線、(都)名古屋三好線、(都)日進三好線を東西軸と設定します。
- 南北の市街地や都市拠点・地域生活拠点、日進駅等を結ぶ道路ネットワークとして(都)瀬戸大府東海線、(都)豊田知立バイパス線を南北軸と設定します。
- これらの軸上の市街地については、上記分散型市街地への対応として、市街地の連担化について検討します。

#### 水と緑の環境軸（河川・愛知用水）

- 町の南部を東から西南に流下する境川と境川に注ぐ前川及び春木川、愛知池から西に流れる愛知用水を水と緑の環境軸として位置付け、当該環境軸の起点となる愛知池周辺の水と緑の拠点や自然・田園ゾーンの緑、その他の大小のため池等の水辺環境とともに保全・活用を目指します。